

うしお

第 155 号

昭和 44 年 5 月

目 次

漁 場 観 測 速 報 (4 月 分)	増 殖 部	1
定 置 観 測 (4 月 分)	〃	2
4 月 の 漁 海 況	漁 業 部	3
薩 南 海 域 の カ ツ オ 情 報	〃	5
業 務 概 況	編 集 部	15

鹿 児 島 市 城 南 町 20 番 12 号 ☎ 892

鹿 児 島 県 水 産 試 験 場

漁場観測速報 (4月分)

増殖部

旬別	浦内		水成川		牛根	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
上	16.28	14.00	17.45	16.60	18.93	14.5
中	16.95	15.55	18.56	17.25	18.08	16.35
下	18.25	16.90	20.88	19.54	19.60	17.60
月平均	17.18	15.53	19.03	17.84	18.20	16.15
前月差	+1.98	+1.60	—	—	—	—
前年差	—	—	+0.07	+0.26	—	—

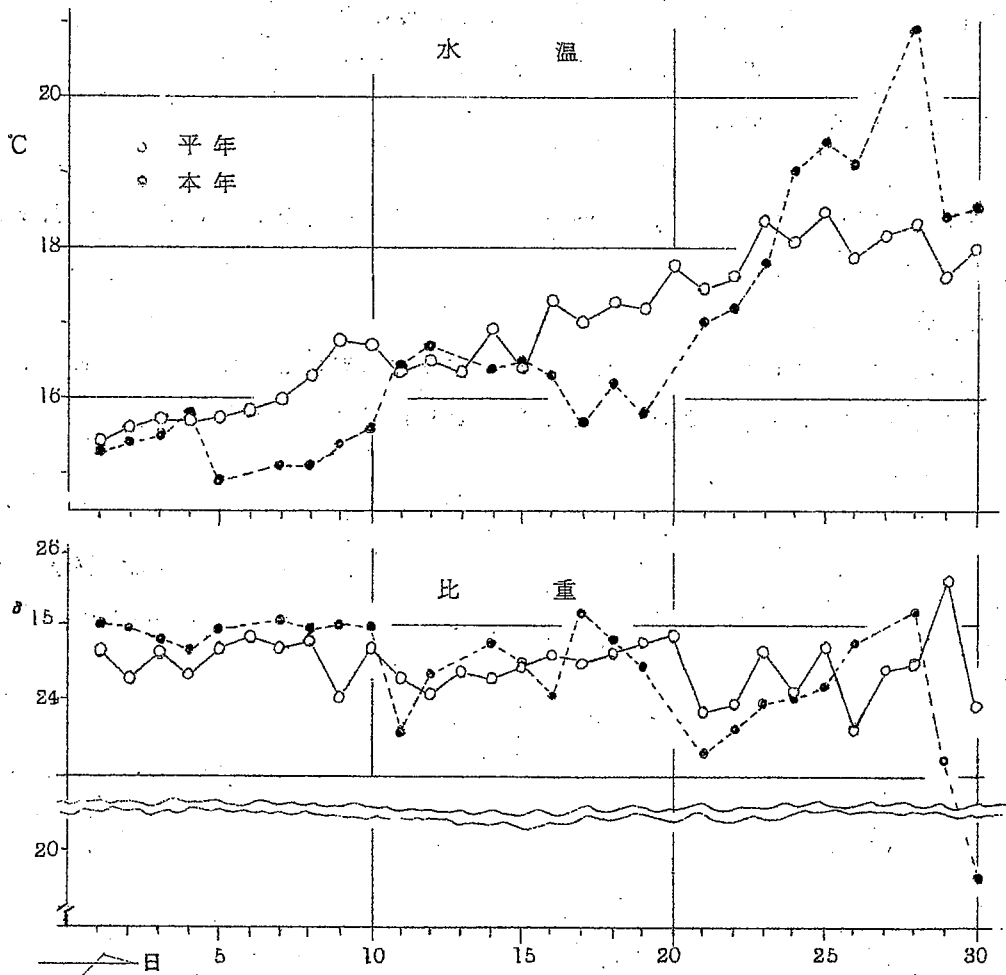
- 観測者の都合で43年度までの福山を44年度は牛根に変更した。
- 42年度まで里で観測していたものを43年度から浦内に変更したため前年との比較は出来なかつた。
- 浦内
4月の月間水温は平均14.00～17.18℃の範囲で上,中,下旬と順調な上昇をたどっている。
- 水成川
月間水温は平均16.60～20.88℃の範囲で外海に面しているため浦内,牛根に比較して1～2℃高い。昨年度に比較した場合殆んど差がなく順調に上昇している。
- 牛根
福山を廃止して新たに設けた箇所であるが,福山に最も近いところであり,福山の前年度との比較では月平均で最高+0.18,最低-0.1で殆んど差がなくこども順調な上昇といえそうである。

定 置 観 測 (4 月)

増 殖 部

○ 旬別平均水温・比重 (昼間満潮時・表面)

旬	水 温 ℃				比 重 σ_{15}			
	本 年	前旬差	前年同期差	平年差	本 年	前旬差	前年同期差	平年差
上	15.34	+0.16	-0.58	-0.64	24.92	+0.67	+0.16	+0.33
中	16.25	+0.91	+0.03	-0.63	24.45	-0.47	-0.19	-0.03
下	18.59	+2.34	-0.04	+0.57	23.52	-0.93	-0.03	-0.68
月平均	16.74	+1.92	+0.31	-0.18	24.29	-0.39	-0.24	-0.14



※ 海 況

上旬の観測では大隅海峡は18℃前後、甌島近海域は17℃、屋久島南部域は20～21℃、種子島東部域は19～20℃を示し、これを例年と比較すれば甌島、屋久島北部海域は低目であるが、枕崎沖合、大隅東部では暖流の影響で高めであった。下旬では大隅海峡は21～23℃、屋久島南西域は24℃が観測され上旬より3～5℃の上昇で、これを5月上旬と比較しても1～2℃高目で水温の急昇がみられた。

海流は上旬で黒潮本流域の中心は屋久島南50哩附近にあつて3月よりやや離岸しているが種子島東方では相当接岸している。

※ 漁 況

○ 旋 網

旋網水揚量は3,380吨(243隻)で昨年(2,404.0吨372隻)一昨年(2,099.0吨215隻)を上まわる漁獲であつた。

薩南海域では種子島南部はムロ主体、屋久島新曾根ではアカムロ主体、佐多岬沖合では小サバ、豆アジ主体にアカムロの混獲の漁場が形成された。

この海域の漁場は下旬以来不漁が続いている。

西薩沖合では野間岬沖が小アジ主体の漁場で、甌島～牛深沖合も同様な魚種組成の漁場が形成されたが、3月の小サバ主体の漁況から小アジ主体への変りが目立つた。

○ カツオ一本釣

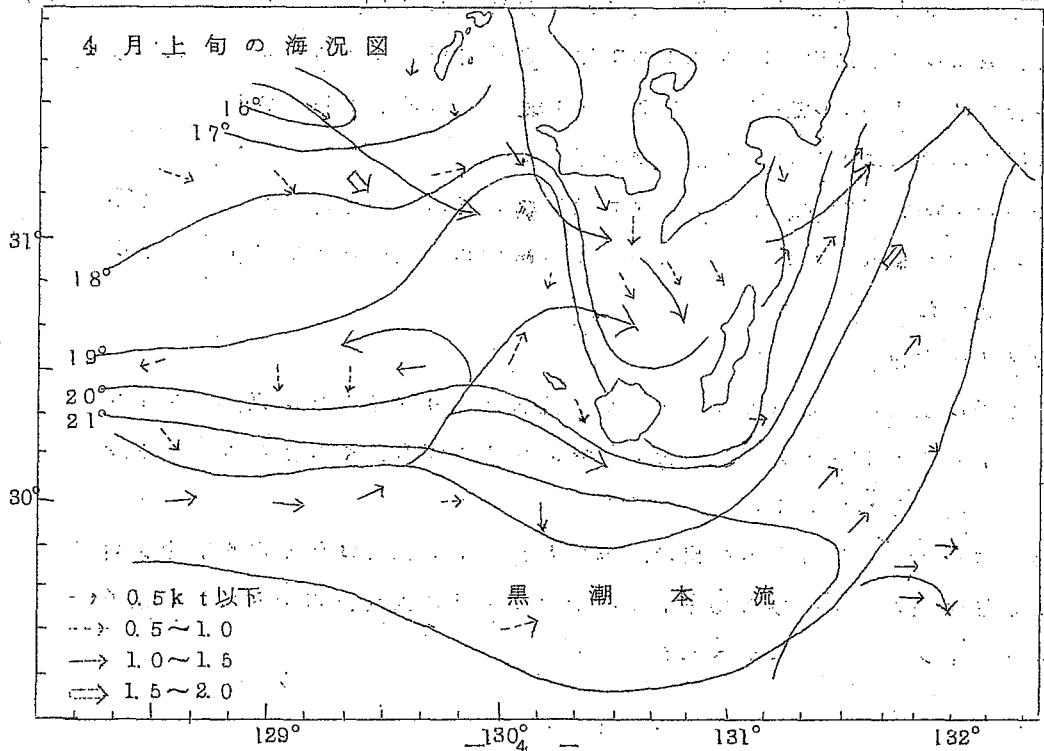
大型船は上旬の台湾海域の漁況がやや低調となりフィリピン東方のN14°～18°、E127°～128°で操業、小判カツオの割合がやや多かつたがトンボも若干漁獲されている。

小型船は一部宮古島近海への出漁もみられたが、大部分は伊平屋島、中ノ曾根、臥蛇周辺の七島漁場で操業、小判カツオ主体に大判が若干みられ、種子島東部でトンボが若干漁獲された。

○ マグロ延縄

中旬頃まで大型船は27°~30°N, 132°~139°E附近でトンボ主体の漁獲をなしていたが, 中下旬頃から南方域のキハダ漁や沖縄近海域のクロマグロ漁へと移った。沿岸マグロは沖縄西部のN27°, E127°附近でキハダ主体の漁場が形成されたが, 中旬以来喜界島~種子島東岸のクロマグロ漁もはじまりキハダにクロマグロ2~4尾程度の漁獲があつた。

業種	漁港	入港 隻数	水揚量 (吨)	魚種別組成							43年4月		
				アジ	サバ	ムロアジ	その他ムロ	カタクチ	ウルメ	その他	隻数	水揚量(吨)	
旋網	阿久根	大	74	974.5	763.4	187.4	19.8			0.1	3.8	6.8	588.1
		中	32	175.5	131.8	34.8	0.2		7.4	0.1	1.1	8.3	364.2
		小	9	7.3	6.6	0.1			0.6			8.9	130.8
	枕崎	53	1287.7	606.1	178.5	384.9	105.8				12.4	71	762.1
	串木野	75	935.4	848.7	69.1	7.0			1.4	0.5	8.5	61	558.8
カツオ一本釣	枕崎	大	56	2161.0								56	2049.0
		小	92	1016.3								115	1359.0
	山川	大	43	1714.5								31	1241.0
		小	51	1458.0								173	2342.4
曳縄	枕崎		33.2										
	山川	10	3.1										



I 現 状

1, 海 況

(a) 鹿児島県水産試験場の観測(第1図)

3月から4月にかけて屋久島近海の表面水温は17~18℃台で平年より2℃内外の低目で経過していたが、4月下旬になつて23℃台に急上昇して平年より1℃以上の高目になつた。このほか平瀬海域は24.5℃、中ノ倉根で23.5℃内外の水帯が観測され平年並に復した模様である。

(b) 南西海区水産研究所の観測(第3図)

薩南海域から台湾東方海域の観測を2月17日~3月20日に実施した結果をみると一応の目安として表面水温の22℃等温線は今年は沖縄近海まで達しており昨年より高目に推移している。(43年は台湾東方に存在し、41年の好漁年は種子、屋久近海まで達している)

(c) 長崎海洋気象台の水温予想

本県夏季の西日本海域の表面水温は平年並みとなる。東シナ海の黒潮の流量は増量期を過ぎて減量に移るが平年よりは多めの見込み。このほか黄海冷水の南下は弱い。又黒潮流域の水温上昇は例年より早いだろう。

2, 漁 況

枕崎、山川港に水揚げした中小型船は2月に6隻で57屯、3月は111隻で1123屯、4月は243隻2493屯で本年を昨年同期に比べると2月は減少しているが、3月は入港船で2倍強、水揚量は5倍強であつたが、4月は入港船、水揚量ともに減少した。入港船からの調査を要約すると次のようであつた。

2月下旬：大型船は紅頭岐南のN2.1°~2.2°, E12.2°内外に集中し、1隻30~40屯の漁、中小型船の大半も大型船とはほぼ同じ漁場で操業し大判主体(80~90%)で1隻8~15屯、このほか宮古島方面では2kg以下の小判主体、徳之島近海でシビ主体に釣獲した船もあつた。水温は先島群島から台湾南部で昨年より1~2℃の高目に

なっている。

3月上旬：大型船は台南漁場とパラオ近海からの入港船が多く、1隻30～80
噸であつた。中、小型船は紅頭岐附近で操業するものもあつたが、宮古
島でも18～20噸の好漁船もあつた。

3月中旬：中、小型船は宮古南東漁場で操業する船が多くなり1隻10～15噸。
大型船はラサ島南からルソン島東部に多く小判主体で30～40噸の船
が多かつた。又、N18°～19°、E126°～128°で操業した船で60
噸の好漁船もみられたが99%が小判であつた。

3月下旬：中、小型船は宮古南東漁場から紅頭岐附近で13～17噸程度、又悪
石島近海で17噸の漁事があつた船もみられた。大型船はルソン島北東
域N20°～23°、E123°～127°で1隻当り小判主体の30噸内外で
あつた。

なおスル海のN7°～50'～8°～15'、E119°～20'～30'において
3日間操業で75噸の好漁船もあつた。(大判39%、中判60%)

4月上旬：中、小型船は宮古南東漁場で2～3日間操業で8～25噸の入港船が
数隻あつたが悪石島近海からと沖縄西の鳥島曾根附近から8～15噸の
漁獲で入港する船が多かつた。

大型船はN18°～22°、E125°～127°で30～40噸の船が多か
つた。(N17°～18°、E127°～129°で70噸の船もあつた)

4月中・下旬：中、小型船は沖縄西の100尋線附近と五号曾根、中ノ曾根あた
りに出漁した船が多かつた。(8～20噸の漁) 一方台南漁場にも数
隻出漁した船は20噸内外の漁であつた。

次に本県に水揚げされたカツオの経年変化を第2図に示したとおり、
中、小型船は42年までは隔年周期であつたのが43年はその型がくず
れた。

このように41年を最高にして減少の傾向を辿るようになりうかがえる。

大型船による南方カツオは上昇の一途を辿り、43年は近年の最高で
あつた。第4図の1隻当りの平均漁獲量からも同様な傾向がみられる。
従つて1～3月を各月についてみても同様であり43年は50噸をこえ
る漁獲量であつた。ところが今年の場合1月40噸、3月39噸と43

年に比べ大巾に減少していることがわかる。

太平洋のカツオ資源はいまのところ増加傾向にあるということがいわれているが、本県に水揚げされる傾向からみれば、漁場はパラオ、小笠原方面の東沖が不漁であつてルソン島東部に形成されていることは、太平洋のカツオ資源が減少傾向にあるのか、あるいは今年だけの特異現象であるのかはつきりわからない。

第7図の大型船による魚体をみると、昨年9月から今年2月までは5～6kgの中判が増加しており、7～8kg以上の飛大、3～4kg以下の小判が非常に減少しているのが目立っている。(但し9、10月の小判は多いが)

中小型船による近海カツオは、2月は例年なら七島近海の瀬付の大判を釣獲していたが、年々船型は40屯級に大型化される傾向にあつて漁場は台湾近海へ出漁するようになつた関係上資料は少ないが今年には特に小判の占める割合が多かつた。

参考までに南方、近海を問わず魚価はkg当り110～130円の高値が続いている。

枕崎、山川港には県外船の入港も多く東沖の漁場が回復しない限り当分高値が続くと思われる。

II 見 透 し

1. 水温の変動を一応の目安として屋久島近海についてみると、3月が最低温期で4月上旬以降は上昇期に入り4～5月の上昇傾度は急激である。従つて以前予想していたとおり薩南海域の水温は5月以降平年より高目に推移している。このように冬期低温から春期高温に急上昇する好漁型ともいえよう。
2. 本県に水揚げされるカツオの経年変化は、41年を最高にして42年43年は減少の傾向を示していることと、今年の南方カツオ漁場は、小笠原、パラオ方面は不漁で、ルソン島方面に西偏していることは、カツオ資源の勢力は西に強く東に弱く見受けられる。南方からのかい游を待つ薩南海域では好条件ではなからうか。

しかし、現在南方漁場での魚体は産卵群である大判と、今後薩南海域での

漁獲対象になるであろうと期待される小判の減少がうかがわれる。

南方での1隻当りの漁獲量は30～40屯台で好漁型でないことなど好条件は揃っていない。

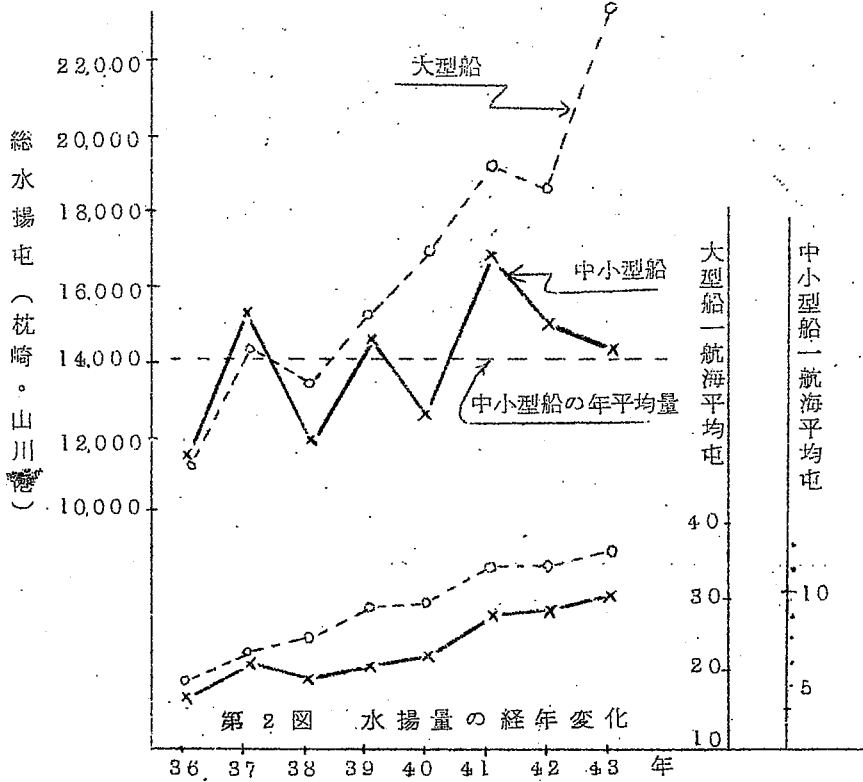
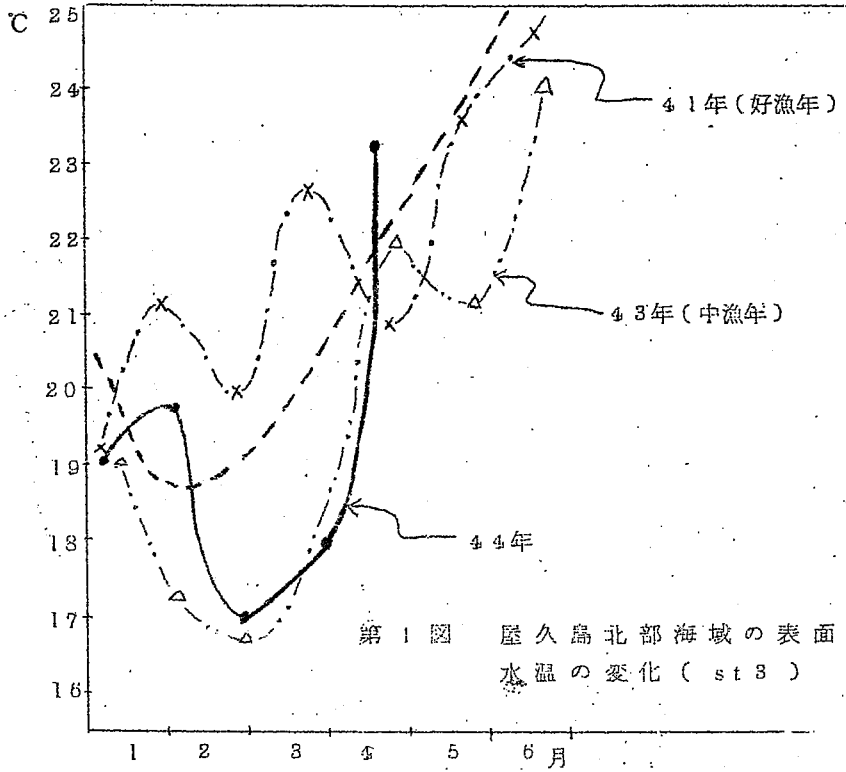
反面本年2月頃の台湾近海は、小判群の漁獲が多くみられており南方での漁獲量は悪かったが、台湾近海へのかい游は少なくなかったのではないかと考えられる。

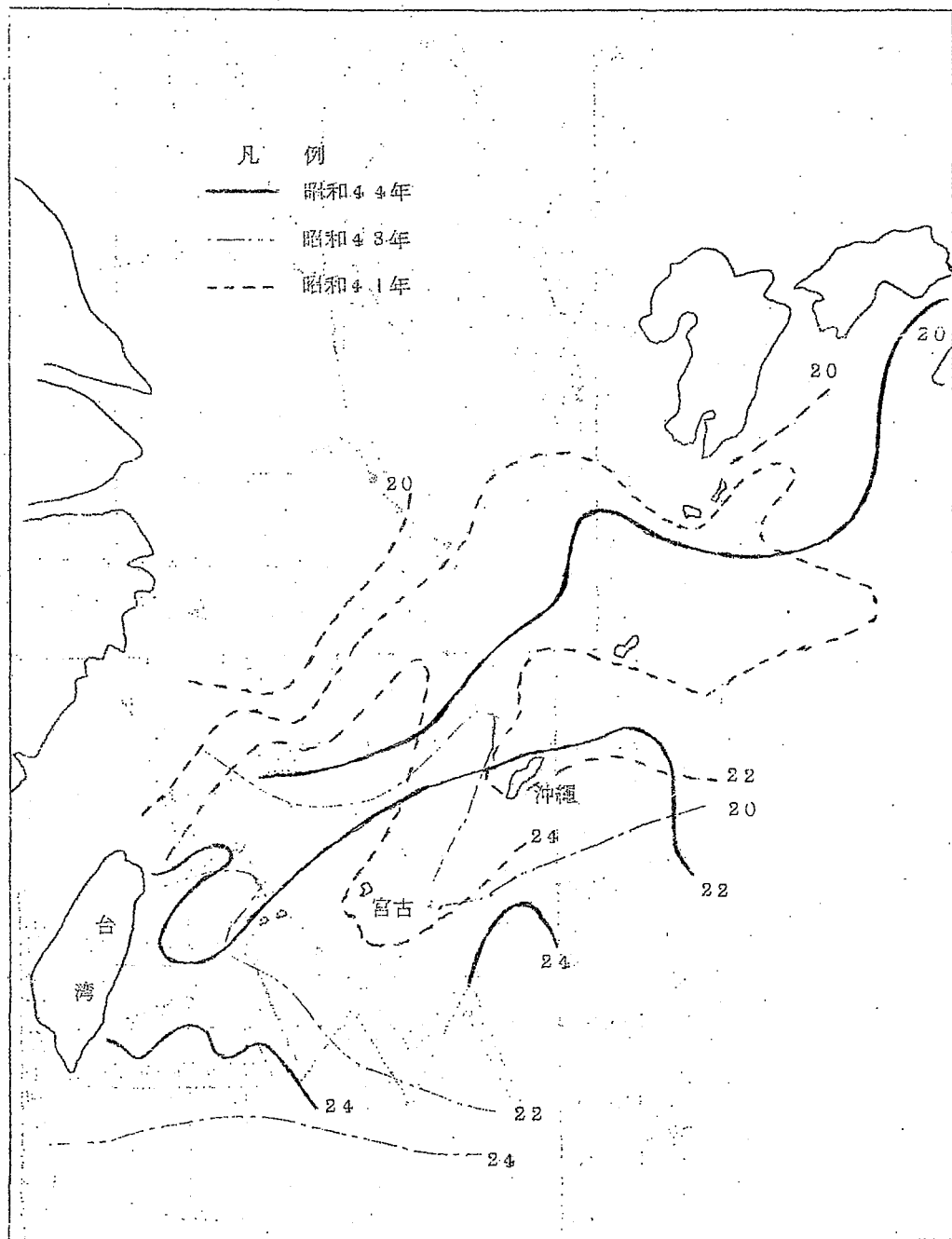
このように南方、近海の漁況は相反する条件になつており、近海へのかい游を多く望むのは無理なように感ずる。

3、黒潮域の水温は5月になつて平年に復した模様であり流量は43年を最大に今年は減量期に入つたようであるが平年より多い見込みである。

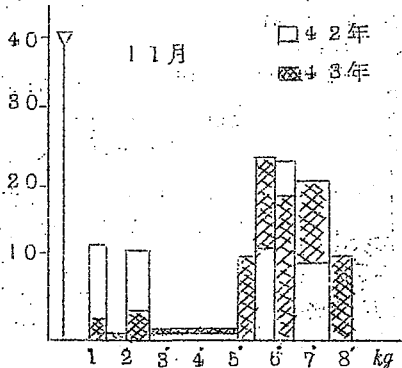
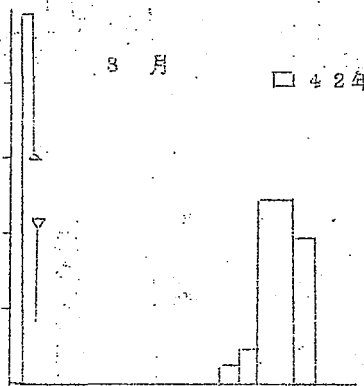
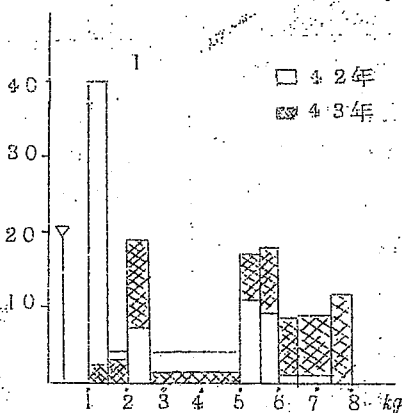
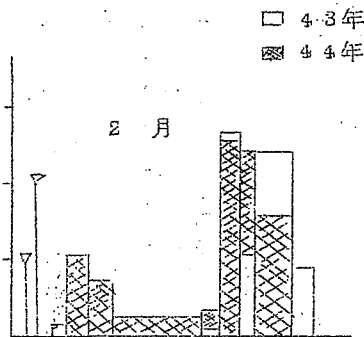
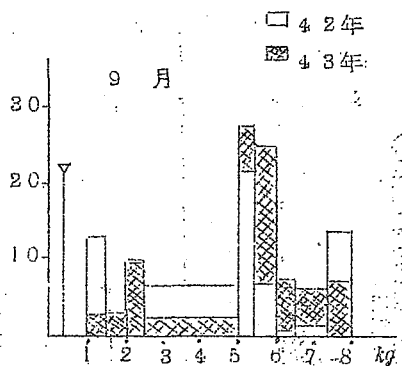
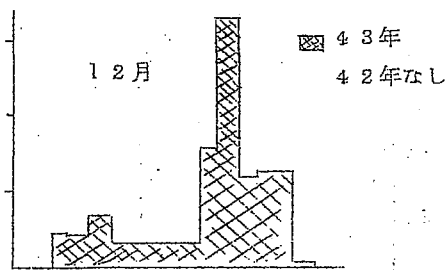
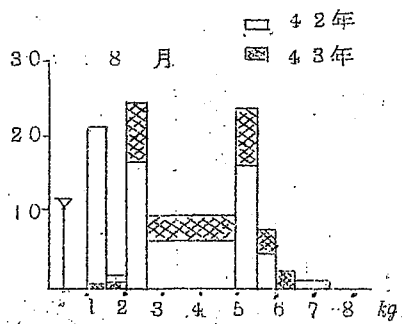
種子、屋久近海は冬期から黒潮勢力の影響を強く受けており、一方甌島方面からの沿岸水系の南下流は依然として強い。従つて両者の混合域である黒島、草垣近海は渦動域を形成している模様であり、この方面での漁場形成は早くなろうと予想される。

4、以上のような見方から今年は不漁型でなく平年漁になる公算が強いと予想される。



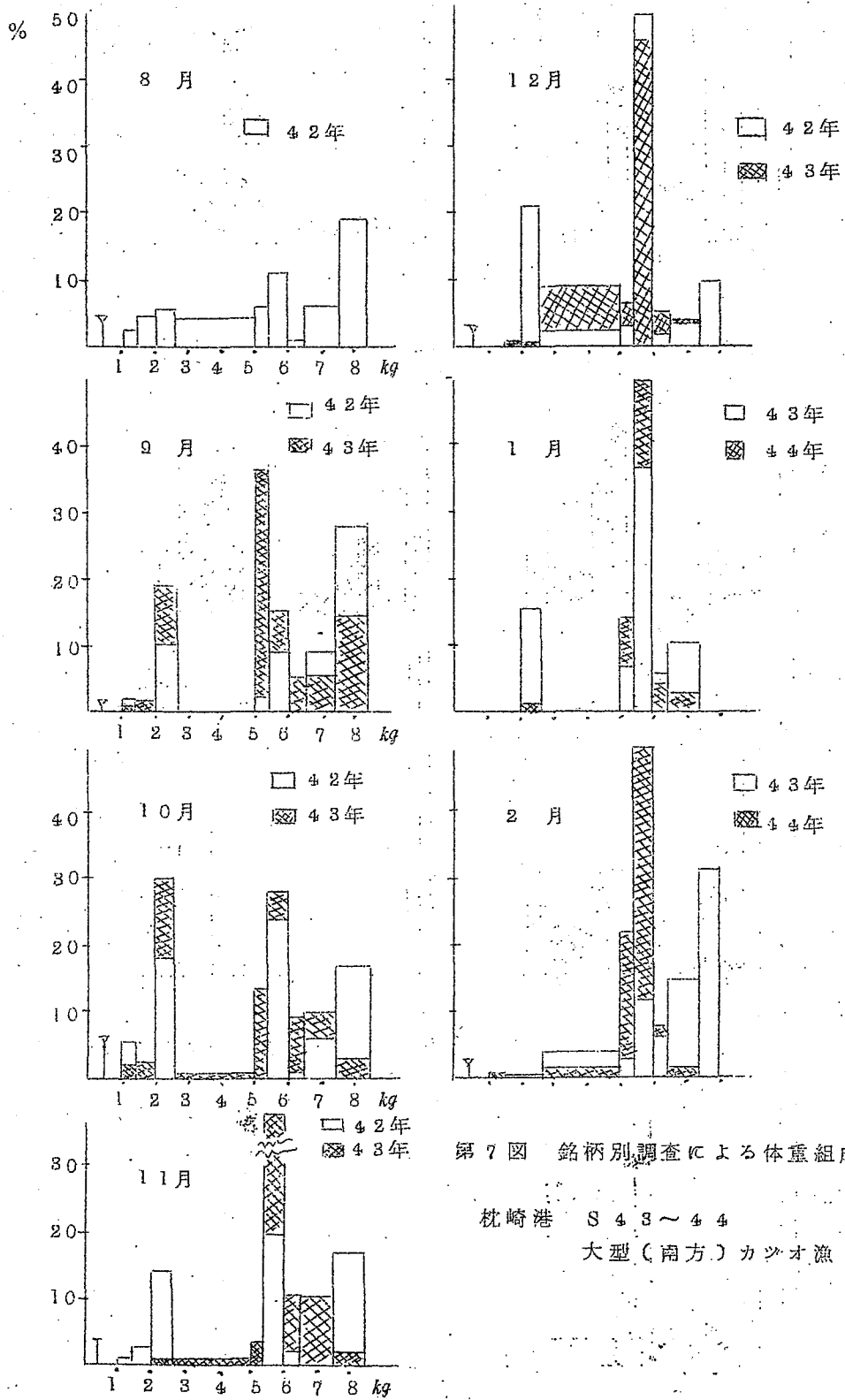


第 5 圖 表面水温分布



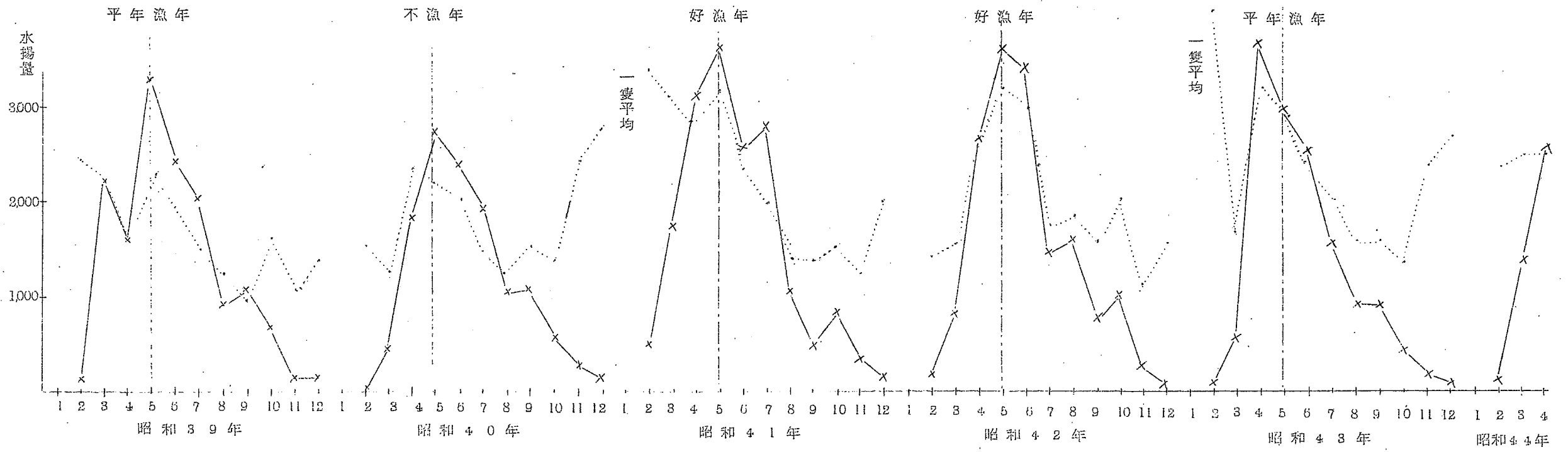
第6図 銘柄別調査による体重組成

枕崎港 S 43~44
中小型(近海)カツオ漁

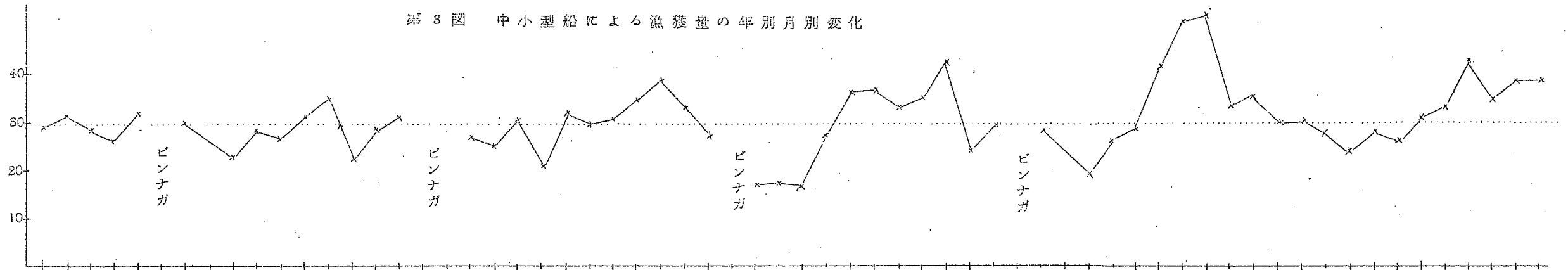


第7図 銘柄別調査による体重組成

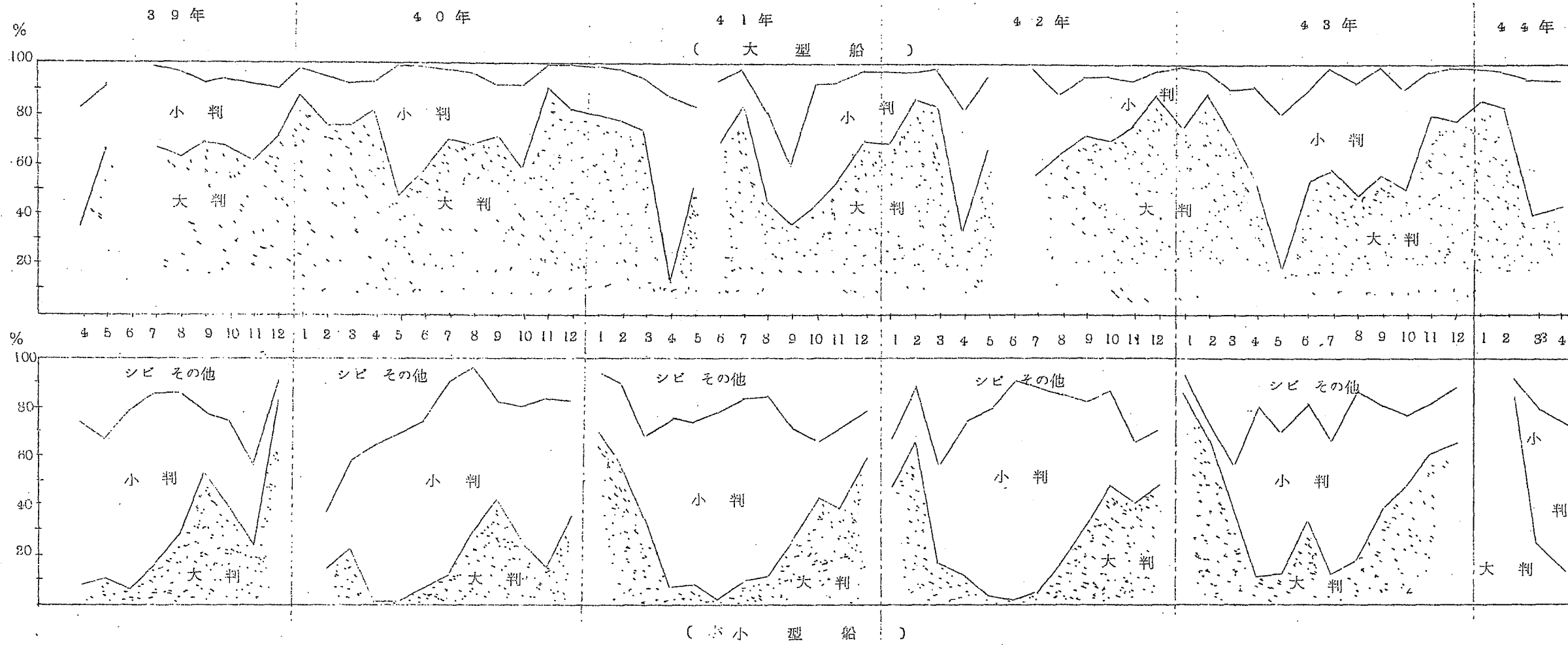
枕崎港 S43~44
大型(南方)カツオ漁



第3図 中小型船による漁獲量の年別月別変化



第4図 大型船1隻1航海当り漁獲量の年別月別変化



第 8 図

業 務 概 況

8 本 場

漁 業 部

- 5月1日～3日 坊泊貝エビ分布調査(かもめ)
- 5月3日～17日 プリ仔調査(かもめ)
- 5月1日～17日 ビンナガ魚群調査(さつなん)
- 5月8日 カツオ漁況予報発表
- 5月15日 トビウオ漁況予報発表
- 5月21日～26日 浮魚魚群調査(さつなん)
- 5月21日～28日 プリ仔調査(かもめ)

増 殖 部

- アコヤガイ病害調査(福山, 隼人, 龍ヶ水)
 - 5月1日 試料採取
- 真珠漁場観測(福山, 隼人, 龍ヶ水)
 - 5月10, 26日 観測
 - 5月11, 27日 鉄板取揚げ
 - 5月17日 付着硅藻取揚げ
 - 5月10, 12日 生長測定
- バイ養殖試験
 - 5月2日 網囲い作業(谷山)
 - 5月15, 16日 種苗交渉(熊本県河内)
- ノリ関係
 - 月間 糸状体培養
 - 5月21日～ 育種実験準備

製 造 部

- 魚肉エキス利用試験(継続)